

富士

ふれあいの村だより

第 28 号

令和6年3月

交流の大輪が咲き誇った!! 「富士ふれあいの村まつり」

山梨県立富士ふれあいセンター 所 長 酒 井 明 美

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年度から開催を見送ってきました「富士ふれあいの村まつり」ですが、コロナウイルスも5類感染症になり、様々な活動が復活できる環境が整う中で、村まつりを主催する運営委員の皆様をはじめ多くの方々の御支援、御協力をいただき、4年ぶりの村まつりを9月9日に1,500人の来場者をお迎えし開催することができました。心より感謝申し上げます。

ここで、皆様からの感想などを御紹介させていただき、村まつりを振り返る中で、改めて村まつりの意義を一緒に考えていただければ幸いです。

今回で25回目を迎えた村まつりの新たな企画として、令和4年度制作した振り付けの曲『うまれてきた いいなかま～目にうつるものだけがほんとではないよ～山梨県立富士ふれあいセンターVer』を会場全体で踊る機会をつくりステージダンサーを募集しました。

また、富士北麓・東部地域の障がい児(者)が制作した書道や絵画等を展示する『作品展』を開催しました。

みんなで踊ろう『うまれてきた いいなかま』を御覧になった方々からは、「共通のダンスを踊ることにより、会場が一つになり良かった」「他施設の方と楽しく交流できた」「皆さんよく練習したようで盛り上がった」「体を動かす機会ができ励みになった」などの感想が寄せられました。

当日は、曲づくりに御尽力いただきました“バーニングスカイ&ザ・ルミナス・ソウルバンド”“チャイルドフッド”“パルパルメンバー”の皆さんが駆けつけてくださり、会場は素敵な歌や演奏をバックに、ステージダンサーを中心とした参加ダンサーの輪が広がる熱気に包まれ、一人ひとりが輝く～イキイキノリノリ!!の笑顔あふれる楽しいダンスタイムになりました。

『作品展』では、8施設から出品いただいた約60点の作品を、村まつり当日を含む1か月程の間、当センター

の研修室に展示し、多くの皆様に御覧いただきました。

作品づくりの様子を見聞きた方や作品を鑑賞された方の感想は、「出展が制作意欲につながり、展示されるのが励みになった」「頑張って制作した作品の発表ができ喜んでいる声をたくさん聞いた、特に御家族が嬉しそうだった」「日頃、障がいのある方の作品を見る機会が少ないため、色々な作品を見ることができて良かった」など、来年度の企画に参考になる建設的な御意見をいただきました。

さらに今回の村まつりでは、地元の高中生や大学生など30名程の方が、障がいのある方とのふれあいや交流を深めることを目的に、運営をお手伝いいただくボランティアスタッフとして参加していただきました。また、猛暑の中、ステージ発表の練習に励んでくださった皆様、模擬店の準備・運営に携わっていただきました皆様、大変ありがとうございました。

4年ぶりの村まつりを開催し、障がいのある方々の生き生きとした発表やたくさんの笑顔、懐かしい友との再会を喜び合う姿を目の当たりにし、思っていた以上に、多くの方が村まつりの開催を待ち望んでいたことを実感しました。参加者にとって村まつりでの体験が、日々の生活の中で大きな力になることを願っています。

令和6年度(第26回)の村まつりが、さらに意義あるものとなるよう、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。



「うまれてきたいいなかま」でダンス!ダンス!!

(福)山梨県社会福祉事業団障害者支援施設

はまなし寮

TEL (0555) 72-5322

FAX (0555) 72-5325

E-mail : hamanashi@yfj.or.jp

http://www.yfj.or.jp/hamanashi/

寮長 田口 芳樹

コロナウイルス感染症が昨年5類に変更されました。はまなし寮では、利用者さんが普通の生活に戻れるように、富士・東部保健所の専門チームや法人内の看護チームの意見を取り入れ、現在の感染症予防対策、発生時の対応などを再確認しています。基礎疾患や重度の障害をお持ちの方をお預かりしている当寮では、コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス感染対応についての警戒を続けていますが、情報として伺った世間一般や、病院等の感染症対策緩和の早さは不安に感じるほどでした。昨年のクラスター発生で、多くの利用者さんが入院対応を余儀なくされた現場としては、安全・安心と、日常での予防対策、感染症発生対策を慎重に検討しながら、コロナ禍前の日常に戻っていきたいと思っています。



4年ぶりの慰問で、夫婦太神楽を披露していただいた「かがみもち」と笑顔の利用者さん

■ご家族とのふれあい

コロナ禍前には、季節ごとの各種行事を実施する際に、ご家族や来賓の来訪があり、利用者さんも楽しみにしていました。昨年は5類変更後の春に「春まつり」、そして秋に「富士ふれあいの村まつ

り」の企画で、ご家族の来訪も予定していましたが、両行事共に直前の職員コロナ発症で来訪は中止になってしまいました。そして、11月の「保護者会清掃ボランティア」で、なんとか多くのご家族の来訪が叶いました。久しぶりにご家族とお会いする方は満面の笑みで、コロナ禍での様子やご家族の近況などを話しておられました。職員からも、コロナ禍でみなさんがいろいろ頑張ったことや、クラスター発生で大変だった様子をお伝えしました。職員一同、改めて利用者さんが多くの我慢をしていたことを実感しました。現在は平日に面会室での面会は可能となり、日帰りの外出も体調確認をした上で可能となり、利用者さんの笑顔が戻ってきています。

■ナースコールIT化によるインカムシステムの導入

昨年1月に、施設内のナースコールを一新しました。施設内にブザーが鳴り響き、職員が走って駆け付ける。職員同士が大声で連絡をとりあう。夜間でもブザー音が鳴り響く……。そんな状況に終止符を打つべく、IT化補助金を活用しました。インカム（骨伝導イヤホンとマイク）の装着は、意外と違和感なくみなさんに受け入れていただけました。職員が慣れるまでに多少の時間を要しましたが、職員動線や業務時間の効率化、職員相互の連携、利用者さんとのコミュニケーション増、内線電話との連携、寮内の静粛化など、新しい時代の施設福祉を実現できたことは、大きな前進です。



トピックス

はまなし寮

■居室へのドア設置 ～プライバシー空間の確保～

はまなし寮は、居室と廊下はカーテンによる仕切りとなっています。プライバシーが重視される現代においては、あまり褒められた構造ではありません。また、感染症発生時の拡散防止としても問題がありました。現在数部屋にドア設置をしていますが、毎年予算を組んでドアのある居室を増やしています。



ふじざくら支援学校

TEL (0555) 72-5161

FAX (0555) 72-5164

E-mail : hujizkr-yg@pref.yamanashi.lg.jp

「地域とともに」

校長 手塚 雅 仁

山梨県立ふじざくら支援学校は、開校以来富士北麓地域の皆様に支えられ、地域の特別支援学校として、障害のある児童生徒が将来地域の中で自分の能力を最大限に発揮し、生き生きと豊かに生活していくことができる「生きる力」を育むために、一人一人の児童生徒に寄り添った教育を行っています。

全校児童生徒は109人で、小学部、中学部、高等部で学んでいます。児童生徒は学校の所在地である富士河口湖町をはじめ、富士吉田市、西桂町、鳴沢村、忍野村、山中湖村の6市町村から毎日元気に通学しています。本校の対象となる障害は知的障害と肢体不自由です。複数の障害のある重複障害も対象となります。また、医療的ケアを必要とする児童生徒も通学しています。このように多様な障害のある児童生徒が学んでいます。

地域の皆さんと一緒に学び、活動する

本校では開校以来「交流及び共同学習」に取り組んでいます。「学校間交流」では、鳴沢小学校、河口湖北中学校、富士北稜高校の児童生徒と、直接関わり、一緒に活動しながら交流を深めています。吉田高校とはお互いの学園祭に作品を展示して間接的な作品交流をしています。また、本校に在籍する小・中学部の児童生徒の希望者が、居住する地域の小・中学校の児童生徒と交流する「居住地校交流」を実施しており、今年度は7校と交流を行っています。

地域の方々の「地域交流」では、読み聞かせの活動をしている「このはなさくや」の皆さん、音楽を通しての交流を実施していただいた「銘楽堂」の皆さん、高等部の農園班と交流していただいた「NPO法人富士と緑とかかしの里」の皆さんなど、多くの地域の方々との交流をさせていただきました。

さらに、地域にお住まいの専門的な知識や技能をお持ちの方々に外部講師として自然体験活動や書道などの指導をしていただきました。女子サッカーチーム「FCふじざくら山梨」の選手の皆さんにはサッカーの指導もいただきました。このように地域の皆様の御協力により、充実した教育活動が実施できました。

地域との連携・協力

児童生徒が地域の中で充実した生活を送ることができるように、福祉、医療、行政などの関係機関の皆様とのケース会議に参加しています。高等部では年2回、地域の福祉事業所や企業で実習をさせていただいており、卒業後の進路先としても多くの卒業生がお世話になっています。また、多くの児童生徒が放課後や休日に福祉事業所を利用して活動をしています。医療的ケアが必要な児童生徒は主治医や学校医から指示や助言をいただき、安全に学校生活を送ることができています。

ふじざくら支援学校は、地域の中で、地域の方々に支えられながら、教育活動を実施してきました。そして、これからも、ふじざくら支援学校を地域の皆様のお力で育てていただきたいと思います。引き続き、本校への御支援と御協力をお願いいたします。

トピックス

ふじざくら支援学校

ICTを活用した学習活動

ふじざくら支援学校では、GIGAスクール構想により、一人1台端末が実現しました。教師が作成した教材や学習アプリで学習したり、インターネットでの検索、カメラ機能を活用した観察やデータ共有による意見交換をしたり、コミュニケーション手段として生活場面で利用したりと、様々な活用しながら、学びを深めています。今後も引き続きICT機

器の環境を整備し、児童生徒の学習場面や生活場面での利活用を促進していきたいと思っています。



富士ふれあいの村まつりに参加して

ふじざくら支援学校児童生徒会長 渡邊 あずき

今年度の富士ふれあいの村まつりは、コロナ禍を経て制限なく開催できて良かったと思います。私は、開会式での開会宣言の役がありました。多くの来賓の皆さんが参加する中で、少し緊張しましたが、無事に自分の役割を果たすことができ、安心してました。また、富士ふれあいの村まつりの中で、高等部では「目にうつるものだけがほんとはないよ」のダンスを前に出て発表しました。本番では、学部みんなが一致団結し、今までで一番良い発表ができました。この体験で、より高等部の絆が深まったと思います。小学部の発表もとても可愛らしい演技で会場を和ませることができました。各事業所の発表では、ダンスや歌など個性溢れる発表が多く、楽しい時間を過ごすことができました。

出店では、食べ物からグッズまで多くのお店が並び、見学や買い物を楽しむことができました。それぞれの店でオリジナルのものがあり見ていて楽しかったです。中には、昨年まで一緒に勉強していた先輩方の姿もあり、元気に働く姿を見ることができ、嬉しかったです。まつりの最後には抽選会があり、最後まで全員で盛り上がることができました。

今年度は、無事に開催することができ、私たちはとても良い思い出を残すことができました。このおまつりが開催できたことに感謝しています。ぜひ来年度も開催しふれあいの村まつりがさらに盛り上がり、良いおまつりになることを願っています。



「開会宣言」 渡邊あずきさん

富士ふれあいの村まつりはやっぱり楽しい♡嬉しいがいっぱい!

上野原福祉作業所 施設長 中島 知枝子

コロナの流行により、イベントはもちろん、行動も制限される中、いつまで続くのか?と不安の中で、私たちは体を動かしてフレッシュが出来ればと思い、ダンス活動にこれまで以上に力を入れることにしました。

日常が戻りイベントが再開される時を心待ちに活動して来ました。

今回、富士ふれあいの村まつりが開催され、ダ

ンスを皆さんに披露する場が出来たことはとても嬉しく、これからの活動力にも繋がりました。

参加者みんなで踊るダンスは、みんなが笑顔で楽しそうに交流され、見ているこちらも楽しく嬉しくなりました。

これからも自分たちが楽しむことで、誰かを笑顔に出来るそんな活動が出来たらいいなあ~と思っています。開催して頂き、楽しい時間をありがとうございました。



笑顔でピース!



舞台上でダンス発表

上野原福祉作業所メンバーさんの感想

- ◆知らない人から『ダンスがうまいね』と言われて嬉しかったです。
- ◆他のみんなから『やっぱり上野原福祉作業所のダンスはうまいな』と言われて嬉しかったです。これからもダンスに磨きをかけたい
- ◆みんなと踊れて楽しかったです。
- ◆マツケンサンバのダンスが楽しかったです。
- ◆ダンス発表は集中して踊ることが出来ました。
- ◆『目うつるものだけがほんとはないよ』を大勢で踊れて楽しかったです。
- ◆支援学校の先生やお友達に会えて嬉しかったです。
- ◆お土産が買えて良かったです。

第25回富士ふれあいの村まつりに参加して

障害福祉サービス事業所ありんこ
施設長 栞原 由紀枝

第25回富士ふれあいの村まつりは、9月9日に、4年ぶりに開催することができました。台風13号による前日の大雨の影響を受け、屋内での開催となりましたが、「やっと会えたね みんなの笑顔 心を1つに新たなまつりの幕を開けよう」というテーマの通り、会場の様々な場所で、久しぶりの再会や交流を喜ぶ笑顔があふれ、まつりの開催を心待ちにしていた様子うかがえました。

昨年度は、小林浩太郎さんが作詞した「目うつるものだけがほんとはないよ」の歌をもとに動画制作に取り組みましたが、今年度はステージで、参加者が共に生き生きと踊る姿を見ることができ、この歌やダンスを今後も継続していけたら良いと感じました。

また、富士ふれあいセンター研修室では、8月28



舞台発表で手話コーラスを披露！

日から9月22日の期間に「作品展」が今年度初めて開催され、ありんこでは、文化教養講座で制作したドライフラワーアレンジメントや陶芸の作品などを展示させていただきました。

今回のふれあいの村まつりは、屋内での開催の判断や対応、感染症対策など、大変なことがあったと思います。この場をお借りし、運営に携わって下さった皆様に感謝致します。「第26回富士ふれあいの村まつり」の盛会をお祈りしています。

<参加者の感想より>

- 初めて販売をして、忙しかったけれど、久しぶりに、先生や友だちに会えてうれしかった。
- 手話コーラスを練習して、発表できて良かった。
- ダンスが楽しかった。



作品展出品作品

富士ふれあいの村まつり「作品展」を初開催!

村まつりの一環として障がい児(者)の日頃の文化芸術活動の成果をご覧いただく作品展を令和5年8月28日～9月22日(土日・祝日を除く)の約1ヶ月間、富士ふれあいセンター研修室にて開催しました。

会場には、ふじざくら支援学校のほか富士北麓・東部地域の7施設から出品された手芸、絵画、書道、陶芸等の約60点の作品が展示され、個人で制作されたものからグループで制作した大作まで幅広い作品を鑑賞出来るとても見応えのある作品展となりました。

開催期間中には300人を超える多くの方が来場され好評のうちに終了することが出来ました。出展いただきました施設・学校の皆さまありがとうございました。



スイーツベリー
KATUYAMA 作品

はまなし寮作品



県障害者文化展出品作品の紹介

(富士ふれあいの村内の施設から出品され
賞を受賞された作品を紹介します)

ふじざくら支援学校小学部 5年 中 林 桜 介 さん
「いそぎんちゃく」 奨励賞

砂に絵の具を混ぜて作った色砂を使い、砂絵を制作しました。海の生き物をテーマに、海の中で揺れる『いそぎんちゃく』を生き生きと表現しました。

「富士ふれあいの村」へのアクセス

交通案内

- 車 : 河口湖インターより約2分
- タクシー : 河口湖駅より約5分
- バス : 河口湖駅より
「山梨赤十字病院」下車徒歩5分



編集後記

富士ふれあいの村だよりは今回で第28号の発行となりました。お忙しい中、寄稿いただいた皆様には感謝申し上げます。日常が戻りつつある中で障がいがあっても生活の質の向上を図り地域でいかに生活していくことができるか課題は多いと思いますが今後も地域共生社会の進展に向けた取り組みを考えていきたいと思っています。

編集・発行

山梨県立富士ふれあいセンター

〒401-0301
山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
TEL (0555) 72-5533
FAX (0555) 72-5539
E-mail: fuj-hureai@pref.yamanashi.lg.jp